

# 輪

Kitakyushu Municipal Medical Center Communication Paper

vol.  
90

北九州市立医療センター  
広報誌「輪」

ご自由  
にお持ち  
ください

## 北九州市立医療センター 開院150周年を迎えて

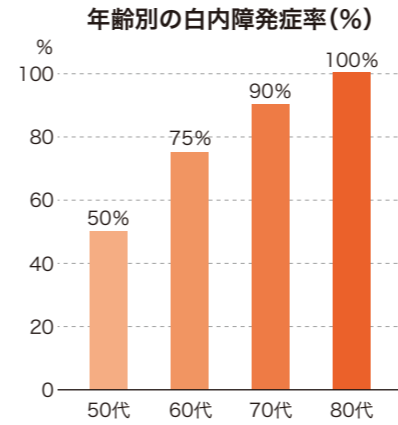
### がん特集 肝臓がん

肝臓がんの特徴と外科治療を中心に



表紙写真：150周年記念イベントプロジェクトチーム

白内障とは、目の中にある水晶体(ピント調節を行う部分)が濁ること、光が眼の奥に届きにくくなるため視力低下をきたす病気です。視力低下の他にも羞明(晴天の昼にまぶしく感じる、夜に対向車の光がまぶしく感じる等)や、物が霞むなど様々な症状があります。原因としては加齢や紫外線に加え、糖尿病、ステロイド薬、アトピー性皮膚炎、眼外傷などでも生じるため多因性の疾患といえます。



前に比べると、格段に低侵襲で行うことができるようになっていいます。ただし、適切な治療時期を逸してしまうと、手術時間が長くなる上に手術の侵襲や合併症のリスクが高くなります。見え方に異常を感じた時は、早めに眼科での精密検査をお勧めします。

## 白内障について

Doctor Question  
ドクター



眼科 部長  
きのした ひろ ゆき  
木下 博之

### 標榜診療科一覧

内科	精神科	内分泌・糖尿病内科	乳腺外科	胆のう外科	リハビリテーション科	皮膚科	放射線科
肝臓内科	呼吸器内科	緩和ケア内科	内分泌外科	膵臓外科	脳神経外科	泌尿器科	病理診断科
血液内科	消化器内科	小児科	大腸外科	食道外科	呼吸器外科	産婦人科	救急科
感染症内科	循環器内科	外科	肛門外科	胃腸外科	心臓血管外科	眼科	麻酔科
心療内科	腫瘍内科	消化器外科	肝臓外科	整形外科	小児外科	耳鼻咽喉科	歯科

### 基本理念

わたしたちは公共的使命を自覚し心のこもった最高最良の医療を提供します

### 基本方針

1. 患者さんの権利 個人情報保護し 患者さんの立場に立った医療を行います
2. 十分な説明と同意による信頼関係のもとに 患者さんが満足できる医療を行います
3. 安心かつ安らぎが得られる質の高い医療をめざし 安全管理を徹底します
4. 常に研鑽して最高水準の医療知識・技術を習得し あわせて温かい心を持つ医療人をめざします
5. 地域における役割を自覚し 地域の医療機関とともにその責務を果たします
6. 合理的かつ効率的な病院経営に努めます

### 編集後記

広報誌「輪」編集長 高島 健

今号は開院150周年記念特別号です。ご寄稿くださった方々に深く感謝申し上げます。150年という長い歴史の中で、多くの関係者の努力と、患者様や地域の医療機関のご支持とによって今日があることを再認識いたしました。地域の基幹医療機関の情報誌として、患者様や地域住民の皆さまの関心やニーズに応えるべく、より分かりやすく親しみやすい誌面づくりを目指してまいります。これからも「輪」をよろしくご厚意申し上げます。



発行日：2023年8月1日



地方独立行政法人 北九州市立病院機構  
北九州市立医療センター  
〒802-8561 北九州市小倉北区馬借二丁目1番1号  
TEL.093-541-1831(代表) FAX.093-533-8693  
外来予約センター 093-533-8660  
[月～金 9:00～16:30]紹介状または二次検診初診受付  
ホームページ <https://www.kitakyu-cho.jp/center/>



ホームページは  
こちらから  
フェイスブックは  
こちらから  
インスタグラムは  
こちらから  
ツイッターは  
こちらから

※本紙では撮影用にマスクを外しています。



# 北九州市立医療センター 150年の歩み

1873 → 2023



◀本館建築工事

明治6年(1873年)4月、北九州市立医療センターの前身である企救郡立小倉医学校兼病院が設立され、その後、小倉町の市制施行を経て、旧五市合併によって北九州市立小倉病院となりました。

昭和43年(1968年)に九州初のがんセンターが付設されたことをはじめ、がん診療や総合周産期医療、感染症医療を中心に、高度医療の推進に努めてきました。

なお、現名称につきましては、平成3年の本館完成を機に、同7月より使用されています。

## 北九州市立医療センターの沿革

- 明治6年4月 ● 企救郡立小倉医学校兼病院として開設
- 明治8年4月 ● 企救郡立から小倉県立になる
- 明治9年4月 ● 小倉県の廃止により福岡県立となる
- 明治10年3月 ● 福岡県立小倉医学校兼病院廃止
- 明治11年9月 ● 企救郡立小倉医学校兼病院として再開
- 明治31年1月 ● 馬借町の現在地に新築移転
- 明治33年4月 ● 小倉市制の施行により、小倉市立病院となる
- 昭和19年4月 ● 病院施設を県に寄付し、福岡県立医学歯学専門学校付属病院となる
- 昭和22年7月 ● 学制改革に伴い、再び小倉市立病院となる
- 昭和38年2月 ● 北九州市の発足に伴い、北九州市立小倉病院となる
- 昭和43年10月 ● 北九州市立小倉病院付設がんセンターを開設
- 昭和46年4月 ● 厚生大臣指定の臨床研修病院となる
- 昭和46年10月 ● がんセンター専用病棟を開設
- 平成3年3月 ● 小倉病院(総合基幹病院)新棟完成
- 平成3年5月 ● 新棟での診療開始
- 平成3年7月 ● 名称を「北九州市立医療センター」に改称
- 平成4年4月 ● 感染症病棟を開設
- 平成4年8月 ● 立体駐車場を開設
- 平成11年4月 ● 第二種感染症指定医療機関に指定
- 平成13年4月 ● 別館の完成
- 平成13年6月 ● 緩和ケア病棟を開設
- 平成13年12月 ● 総合周産期母子医療センターに指定
- 平成14年3月 ● 日本医療機能評価機構(一般病院種別B)より認定
- 平成14年8月 ● 地域がん診療連携拠点病院に指定
- 平成15年10月 ● 臨床研修指定病院に指定
- 平成16年3月 ● 臨床研修協力病院に指定
- 平成20年7月 ● 外来化学療法センターを開設
- 平成23年4月 ● 地域医療支援病院承認
- 平成24年3月 ● 日本医療機能評価機構 Ver.6.0認定
- 平成24年5月 ● 7対1看護基準算定開始
- 平成30年8月 ● 日本医療機能評価機構 Ver.1.1認定
- 平成31年4月 ● 地方独立行政法人化、がんゲノム医療連携病院に指定
- 令和2年4月 ● 地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定
- 令和5年4月 ● 開院150周年
- 令和5年8月 ● 地域がん診療連携拠点病院に指定
- 令和5年8月 ● 日本医療機能評価機構 3rd Generation Ver.2.0認定



▲調剤室(昭和48年頃)



▲調剤室(昭和48年頃)

▲カルテ管理室



看護婦詰所(昭和48年頃)▶



▲新生児室(昭和44年頃)



▲がんセンター開設記念式(昭和43年)



▲明治時代の小倉病院本館(明治33年)

◀市立病院となった当時の小倉病院正門(明治33年4月)



▲旧小倉病院正面



▲がんセンター待合室



北九州市立医療センターの起源は、明治6年に設立された企救郡立小倉医学学校兼病院に始まります。明治新政府の大村益次郎による「医道改正」の提唱にいち早く呼応したものでした。以後、小倉県立、福岡県立、小倉市立、独立行政法人と、時代と共にプラットフォームを変えつつも、明治―大正―昭和―平成―令和の時代を一貫して公的病院として歩みを進めて来ました。平成3年に北九州市立医療センターとしてオープンし、市の基幹病院として政策医療である感染症、周産母子医療を担い、また、がん医療の中心的

存在としての役割を果たしてまいりました。今日まで存続発展することができた背景には、先人の良質な医療を提供するための努力に加え、それぞれの時代に必要とされた医療を提供してきたこと、そして、何よりも北九州市民の皆さまのご支援をいただくことができたことによるものです。心より御礼申し上げます。これからも、信頼され愛される病院となるべく、日々臆することなく改革・改善を進めて参ります。

令和5年4月前身の小倉医学学校兼病院開設より150周年を迎えましたが、200周年に向けて生き残れるか厳しい年が続いています。昭和43年九州で初めてがんセンター（消化器内科、外科、婦人科）が附設され、腫瘍外科を志し入職後7名の院長に任せ、消化器外科その後内分泌（甲状腺）・乳腺専門医へと外科道を邁進しました。各職種の研鑽と努力により、乳がん領域では質・症例数とも、現在わが国において確固たる地位が築かれています。

の外来化学療法センターを開設し、今日のがんゲノム医療連携病院指定として地域の高度がん医療を担っています。北九州市は人口減、少子高齢化に伴う医療の大激戦地区です。10年、20年後の医療革命（医療DX、地域再編・統合など）を見据えて生き残りをかけ、また職員一同の働き方改革により、地域医療へのモチベーションを更に高め、市民の健康増進すなわち地域へのなお層の貢献の観点からも、再度病院建て替えを急ぎ進行させなければならぬと愚考しています。

## 開院150周年を迎えて



北九州市立病院機構  
理事長

なかにし よういち  
中西 洋一



北九州市立医療センター  
名誉院長・参与

みつ やま しゅう しゅう  
光山 昌珠

## 生き残りをかけた150周年を迎えて

Celebrate the 150th anniversary of foundation.

院長 | ごあいさつ

## 開院150周年を迎えて

北九州市立医療センターは、地域支援病院として連携医療機関や市民の皆さまに支えられ、開院後150年を迎えました。

明治6年4月(1873年)に開院された、企救郡立小倉医学学校兼病院が始源とされています。明治33年4月小倉市制の施行により小倉市民病院となり、昭和38年2月北九州市の発足に伴い北九州市立小倉病院、さらに病院新築により平成3年7月北九州市立医療センターと改称し、現在に至ります。長い歴史の中で、今に続く地域の基幹病院としての役割は、昭和43年10月九州初のがんセンター開設を経て、平成11年4月の第二種感染症指定医療機関指定、平成13年12月総合周産期母子医療センター認定と続きます。開設以来一貫して公立病院として地域医療を支えてまいりましたが、変化する地域医療環境に柔軟に対応するため、平成31年4月に地方独立行政法人北九州市立病院機構 北九州市立医療センターとして独立法人化し、令和5年6月現在、実稼働522病床40診療科を標榜する総合病院に発展しました。

がん診療連携拠点病院として、ダヴィンチ手術やがんゲノム医療など、高度ながん診療で県下でも有数の治療成績を誇っています。北九州東部地区唯一の総合周産期母子医療センターとして、妊産婦の皆さまに安心してお任せいただける小児周産期医療を提供し、また質の高い生活習慣病診療を診療の柱として地域医療に貢献しています。北九州地区唯一の第二種感染症指定医療機関としては、重症感染症の多くを受け入れて適切に加療してまいりました。今後も新興感染症旺盛時期に関わらず、地域の皆さまからご信頼いただける安全で質の高い医療を目指してまいります。



なか の とおる  
院長 中野 徹





## 169年前に小倉藩に種痘が導入された経緯について



医療法人徳力団地診療所  
院長  
やま が しげる  
**山家 滋**

当院創立者である武谷伸の3代前の先祖、武谷祐之は咸宜園(日田市)で学んだ後、緒方洪庵の適塾(大阪市)に入門しました。

慶応3年(1867年)、福岡藩主・黒田長溥は洪庵の勧めに応じて藩医学校・養生館(九州大学医学部の源流)を開き、武谷祐之はその督学として運営を担い、教育に従事しました。

さかのぼること20年、適塾では種痘の研究にも従

事、帰郷後はその普及に尽力、嘉永2年(1849年)、福岡藩で種痘を始めます。安政元年(1854年)、小倉藩でも藩庁から小倉藩医・吉雄蔵六が牛痘種方医に任ぜられ、蔵六宅に集まった企救郡医たちの前で隣藩から招かれた武谷祐之が相談に応じたとの記録が残っています。

当時、藩境を超えての交流や医療行政への介入はご法度とされ、大きな壁がありました。しかし、全国的に大流行し死亡率30%とも言われていた天然痘との闘いへの強い思いがこのような交流を生み、日本人の平均寿命を10年延ばしたとも言われる医療革命を小倉藩にももたらしたことは、北九州市立医療センターの源流である、小倉医学校兼病院の創立前史のページを飾るものと思われ、ここにご報告させて頂きました。

(出典：手島宰三記念業績集1988年、他)

## 北九州市立がんセンター創設期の思い出



公益財団法人小倉医療協会  
三萩野病院・理事長  
ひらの ただし  
**平野 忠**

北九州市立小倉病院第16代病院長 澤田藤一郎先生(九大第三内科名誉教授)は、現役時代から、がん疾患に対する思いが強く、赴任後はがんセンター設立を思い立たれました。熱心な働きかけの功で、昭和43年に第3級ではありますが、九州初のがんセンター設立が北九州市立小倉病院に認められました。外科・内科・婦人科・放射線科の4科のスタートで、九州大学病院より医師派遣、第一外科より成富義之外科

部長・為末紀元先生・松永俊泰先生、若輩の私が抜擢されました。昭和45年より勤務を開始、新設の外來部門と病棟は古い病棟の活用でした。昭和46年10月に5階建ての新病棟(1階外來、2階検査関係、3階手術室、4階外科・婦人科、5階内科・放射線科)での診療開始となりました。乳がん患者が多く集まったので、私はがん研病院・国立がんセンターに研修出張時、詳しい手術記録を残すためにはパンチカード方式を勧められ、帰院後直ちに作成に取りかかりました。そのデータの蓄積が市立医療センターの乳がん発展の礎になったと思われま

す。その後、病院は発展を続け、病院は新築され、北九州市立医療センターとなり、北九州市立がんセンターの50年の役目を終えました。当時在籍した医師は居なくなり、代表してその思い出を簡単に述べさせて頂きました。今後の北九州市立医療センターの地域がん診療連携拠点病院としての益々のご発展を心より祈念いたします。



北九州市長  
たけ うち かず ひさ  
**武内 和久**

## 開院150周年の祝辞

北九州市立医療センターの開院150周年を心よりお祝い申し上げます。

明治6年に企救郡立小倉医学校兼病院として開設されて以来、150年という長きに渡り、北九州市の拠点病院として多大なる貢献をされてきたことに心より敬意を表します。

がん医療や周産期医療など、高度で専門的な質の高い医療提供のほか、昨今のコロナ禍では、常に先頭に立ち、市民の命・健康を守るために、ご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

さて、北九州市は今年2月に市制60周年を迎えました。この開院150周年と市政60周年を大きな節目と捉え、今後の飛躍に向け新たな第一歩を踏み出すことができればと考えております。

結びに、医療センターの今後益々のご発展を祈念するとともに、関係の皆様には引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

北九州市立医療センター開院150周年を心よりお祝い申し上げます。1世紀半の間、先人たちの苦勞を考えますと大変だったことがうかがえます。歴史を紐解きますと、明治6年4月企救郡立の小倉医学校兼病院として設立されました。現在の名称になったのは平成3年の7月だと聞いております。北九州市小倉医師会が明治40年10月に設立されておりますが、それよりも30数年早いとは非常に驚きました。地域医療支援病院として、我々北九州市立小倉医師会も長きに



小倉医師会  
会長  
まつ むら よう  
**松村 洋**

## 開院150周年の祝辞

北九州市立医療センター開院150周年を心よりお祝い申し上げます。

最近ではロボット手術などを駆使し、高度先進医療の先駆けを行っているのには目を見張るものがあります。

私事ですが、昭和60年代の初めに臨床研修医として二年間だけですが大変お世話になりました。北九州市立医療センターが今後創立200周年、250周年と大いに発展されることを祈念いたします。お祝いの言葉といたします。

わたり大変お世話になっております。

最近ではロボット手術などを駆使し、高度先進医療の先駆けを行っているのには目を見張るものがあります。

私事ですが、昭和60年代の初めに臨床研修医として二年間だけですが大変お世話になりました。北九州市立医療センターが今後創立200周年、250周年と大いに発展されることを祈念いたします。お祝いの言葉といたします。



## 北九州市立医療センター

# 「医療連携の会」を開催いたしました

7月26日、リーガロイヤルホテル小倉において地域医療機関120施設124名の方にご参加いただき、「医療連携の会」を開催いたしました。昨年は、コロナのためwebでのハイブリット開催でしたが、今年は4年ぶりに皆さまと対面で「顔の見える」交流を図ることができました。

北九州市小倉医師会 松村洋 会長に来賓のごあいさつを頂戴し、当院から中西理事長、中野院長、新任主任部長あいさつと診療科を紹介いたしました。

今年は北九州市立医療センターが開院150周年を迎える節目の年であり、今後も新興感染症への対応と、がん診療拠点病院、周産期センター生活習慣病の強みと将来展望を紹介させて頂きました。



### 「医療連携の会」

腫瘍内科主任部長 有山 寛

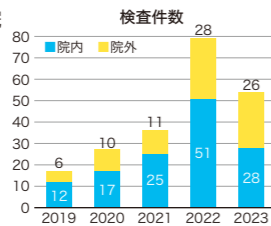


#### がんゲノム検査

✓2019年6月よりがん遺伝子パネル検査が保険適用

- ・がんゲノム医療中核拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院
- ・がんゲノム医療連携病院

- ✓個別化医療
- ✓臓器横断的治療 (MSI-H, NTRK)



### 「新生児科のご紹介」

新生児科主任部長 酒見 好弘



#### 新生児仮死にも迅速に対応

- ・周産期母子医療センター専用ドクターカーでお迎えに行きます
- ・新生児仮死状態に必要な低体温療法装置も配備



@arcticsun

### 「脳神経外科の取り組み」

脳神経外科部長 天野 敏之



#### 脳神経外科の対象疾患

- 脳腫瘍** : グリオーマ、髄膜腫、神経鞘腫、脳悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍
- 脳血管障害** : 脳動脈瘤、くも膜下出血、脳出血、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻
- 神経外傷** : 慢性硬膜下血腫、外傷性頭蓋内出血
- 先天奇形・水頭症** : 二分脊椎、キアリ奇形、先天性水頭症、特発性正常圧水頭症
- 機能的脳神経疾患** : 三叉神経痛、顔面けいれん

### 「真に「低侵襲」な食道・胃がん手術」

外科部長 赤川 進



#### 胃がんに対するロボット手術

- 多関節機能・手振れ防止(郭清)  
脾摘を伴うような**合併症リスクの高い郭清**に向いている
- 体腔内での縫合結紮操作(再建)  
腹腔内から行う**下縦隔吻合(手縫い)**に向いている
- 材料費・人件費(コスト・時間)  
助手2名ではなく、**助手1名**で行う展開

### 「当院の眼科について」

眼科部長 木下 博之



#### 現在の患者さんの特徴

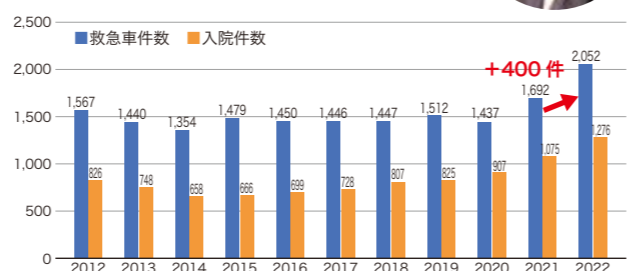
- ✓他の診療科が非常に充実  
→他の診療科と関連のある眼疾患を多く診察・治療
- ✓当院は新生児治療の中心的役割を担う  
→未熟児関連の疾患や小児のステロイド眼合併症の評価・治療
- ✓体の不自由な方に対しての入院手術

### 「北九州市立医療センター救急科紹介」

救急科部長 鍋田 祐介



#### 救急車搬入台数推移



## 150年を機に市立医療センターの大発展を祈念する



医療法人 北愛会  
理事長(元北九州市医師会会長)

おう ま ひろし  
**合馬 紘**

市立医療センターは幼少時から身近な存在でした。第10代院長藤澤幹二先生の御屋敷が祖父の病院の隣にあり、可愛いがっていただいたこと、また五市合併後、院長に就任した同門の第二代教授澤田藤一郎先生の特別外来で予診取りを仰せつかり、汗をかきながらドイツ語でカルテ記載したのも思い出します。

総合基幹病院として新棟が完成し、636床をもつ病院となりました。平成17年に関原医師会会長のもとで、北九州地域医療体制あり方専門委員会で専務理事

として、病院局長らと市立病院の機能分化、重点化、連携促進について議論を重ねました。地域がん診療連携拠点病院として、機能特化すべきと持論を展開しましたが、周産期母子医療と生活習慣病・生活機能病センターの機能を併せ持った病院となりました。

その後は病院の機能特化は急速に進み、昭和43年に九州で初めてのがんセンターを開設(院内標榜)しましたが、今も北九州市を中心とした200万人の生活圏において、がん研究を含めた総合的かつ先進的なセンターがないことは忸怩たる思いです。

老朽化しつつある現病院の建て替えが迫っています。北九州市の再生のためにも、がんの特化したセンターの一刻も早い設立に向けて、地元医師会と官民政が輪となって活動する必要があり、私もライフワークとしたいと思っています。

150周年を迎え、全職員のさらなるご活躍と医療センターの大発展を祈念してお祝いの言葉とします。



北九州市立医療センター  
元看護部長

なが い さち こ  
**長井 幸子**

北九州市立医療センターの開院150年お祝い申し上げます。1964年入職からの38年間を振り返ると、様々な変化も困難も、全職員が英知と努力を持って医療の進歩に研鑽し、誇りをもって努力を重ねてきたように思います。

旧小倉病院の老朽化は著しく、ある日出勤すると病室は雨漏りで、廊下でベッドに横たわっている患者さんに言葉もなく、療養環境は限界を超えていました。現

地建替えには不自由や困難もありましたが、期待が大きく皆で乗り越えられたと思います。また、新棟開始にあわせ、カルテの一患者一カルテ化にゴールデンウィーク休日返上で仕上げ、患者情報の一元化ができたことも一つの前進でした。何より、療養環境が改善し、引越し後の患者さんの笑顔が一番の喜びでした。2001年別館完成と新たに4診療科発足にあたり、看護科にとっては経験者のいない領域で他病院の研修協力を得て、開設に臨めたことも感謝でした。同年秋、日本医療機能評価機構の初めての受審準備におわりましたが、結果として医療の質の見直しができ、多くの改善につながったと思います。

年4回の院内誌「輪」等やマスコミ情報で、医療の進歩の速さや未知の疾病への対応等を知るにつけ職員皆様の変化への先取り、たゆまない研鑽と努力、向上心を誇らしく思い、質の高い医療を求める人々のために、より一層の発展を期待しています。



# 肝臓がん

## 肝臓がんの特徴と外科治療を中心に

### 肝臓がんについて

肝臓がんは5大がんの一つで、毎年約4万人の方が新たに肝臓がんと診断されています。わたしたちの住んでいる北部九州は全国でも肝臓がんが多い地域です。肝臓がんには、①肝臓がんの原因が分かっている②原因の治療・定期検査でがんの発症や死亡を減らすことが可能であるといった2つの特徴があります。

### 肝臓がんの原因と予防・早期発見

肝臓がんの主な原因はB型肝炎、C型肝炎、アルコール性肝障害、NASH（非アルコール性脂肪肝炎）、肝硬変などです。血液検査で中等度以上の肝機能障害がある場合には、これらの肝疾

患がないか調べることが望ましいです。これらの疾患と診断された場合には治療や経過観察を行うことで、肝臓がんの発症予防、早期発見、早期治療が可能となります。その結果として肝臓がんによる死亡を減らすことができます。

現在、B型・C型肝炎は飲み薬で治療することが可能となりました。治療により肝炎のウイルスが消滅すると、肝臓がんにかかるリスクは下がります。アルコールをたくさん飲まれる方は、アルコールをやることで肝機能の改善と肝臓がんのリスク低減ができます。

NASHとはアルコールを飲まないのに脂肪肝から肝硬変に進行していく疾患で肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧などの併存疾患がある方に起こりや

### 肝臓がんの外科治療

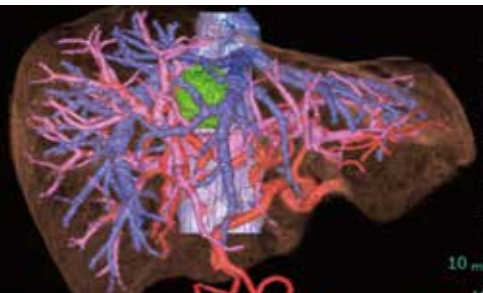
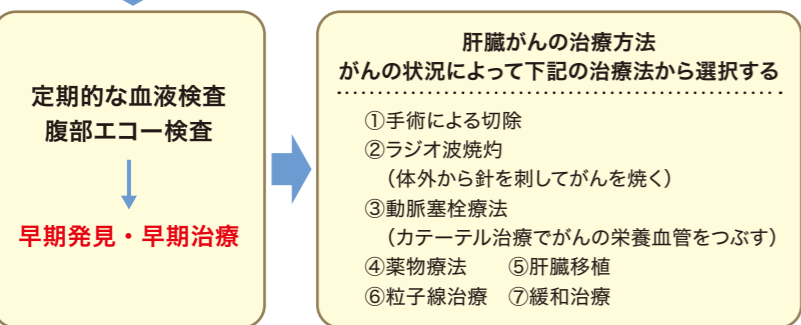
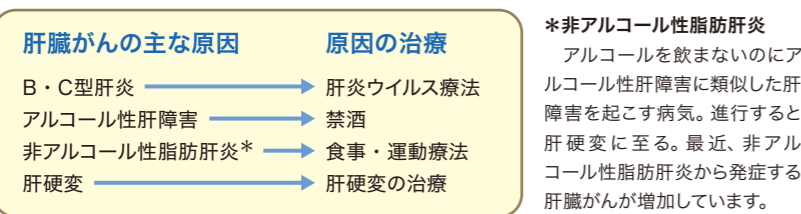
肝臓がん(肝細胞がん)の治療法には手術、ラジオ波焼灼、血管塞栓療法、薬物療法などがあります。昔は肝切除と言え、出血が多く危険を伴う手術でした。現在は術前検査、手術器具や

には市民向けのページが作られており、各県の認定施設、高度技能医の名簿が掲載されており参考にする事ができます。当院には、現在3名の高度技能医が在籍しており、肝臓・胆道・膵臓疾患に対して治療を目指して安全で質の高い手術を行っています。肝胆膵領域の外科治療に関してお困りの方は当科にご相談ください。

手技の進歩により、安全に手術が行えるようになりました。肝臓がんの手術による治療成績は5/10年生存率がそれぞれ70.1/44.7%と他の治療法に比べて最も良好です。また、最近では腹腔鏡やロボットを用いた体に優しい低侵襲手術も行われるようになり、傷が小さいため術後の痛みが軽く、入院期間も短くなりました。当院ではこれまで約1,700

件(うち250件は腹腔鏡手術)の豊富な肝切除の経験があります。肝臓がんの手術は手術例数の多い施設で専門医による手術が望ましいといわれています。日本肝胆膵外科学会は高難度肝胆膵外科手術の経験を多数積み、学会の審査を通過した医師を高度技能医として認定しています。日本肝胆膵外科学会のホームページ

すいと言われていきます。NASHの治療は食事・運動療法と併存疾患の治療が大切と言われています。最近はこのNASHから肝臓がんになる方が増えてきているので注意が必要です。それぞれの原因に対して治療を行った後でも肝臓がんになることはありますので、原因の治療を受けた後に定期的に肝臓がんの検査(血液検査、エコー検査など)を受けることが大切です。



**肝臓がんの手術計画**  
CT検査からがんの位置(緑)と肝臓内部の血管(赤・ピンク・青)を3Dで再構成して、綿密に手術計画を立てています。

### PROFILE

#### 空閑 啓高

肝胆膵外科主任部長。肝臓外科医を志して医師になり、これまでに約700件の肝切除を経験しました。豊富な経験に基づいた確実で安全な手術を心がけています。北部九州は全国的にも肝臓がん患者さんが多い地域ですので、少しでも皆さまの力になれば幸いです。他の病院で手術が難しいと言われた患者さんでも、根治する可能性がある場合には積極的に手術を行っていますのでご相談ください。

- 専門医等**
- ・日本外科学会専門医・指導医
  - ・日本消化器外科学会専門医・指導医
  - ・日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
  - ・日本肝臓学会肝臓専門医
  - ・日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
  - ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 学会関係**
- ・日本外科学会
  - ・日本消化器外科学会
  - ・日本肝胆膵外科学会
  - ・日本肝臓学会
  - ・日本内視鏡外科学会
  - ・日本臨床外科学会



北九州市立医療センター  
外科 主任部長  
くが ひろ たか  
空閑 啓高



# がんゲノムセンター

— がんゲノム医療連携病院として —

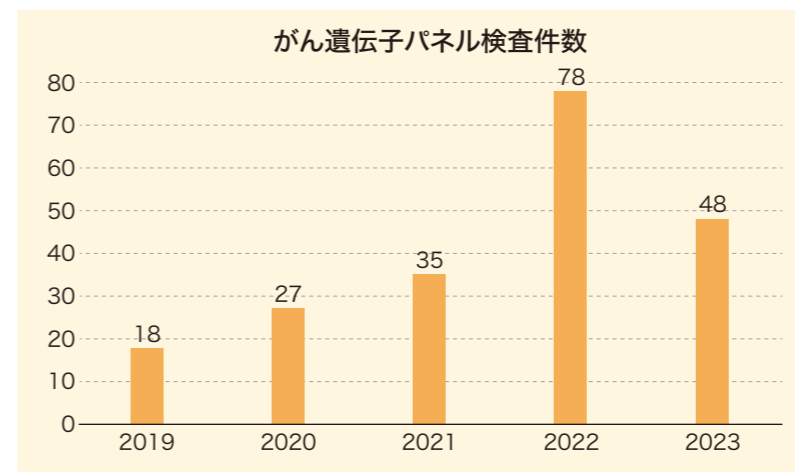


がんゲノムセンター長  
腫瘍内科 主任部長  
ありやま ひろし  
**有山 寛**

がんは遺伝子の変異により異常な増殖を繰り返すようになった細胞が、さらに変異が積み重なることで転移能を有するようになった疾患です。細胞が、がん化する過程において重要な役割を果たす遺伝子を「ドライバー遺伝子」といいますが、基礎研究の進歩とともにド



ライバー遺伝子が同定され、これらドライバー遺伝子に対する治療薬が開発されてきました。一部のがんでは治療前にこれらのドライバー遺伝子の変異を調べて、それに合わせた治療法が選択されています。いわゆる個別化医療がすぐに行われておりますが、調べる遺伝子の数は少なく、多くのがん患者さんは従来の抗がん剤で治療を受けているのが現状です。多くの遺伝子の異常を調べて治療に結び付けること、さらに臓器によらず遺伝子の異常に基づいた治療を行う（臓器横断的治療）ことを目的に、がん遺伝子パネル検査が開発されました。わが国では2019年6月よりがん遺伝子パネル検査が保険適用となり、がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院において検査が可能となりました。当院はがんゲノム医療連携病院の指定を受け、九州大学病院と連携し、がん遺伝子パネル検査を行っております。



2023年5月31日時点

左記の通り経時的に増加しており、近隣の医療機関からも多くの症例をご紹介いただいております。

現状では実際に治療までたどり着く患者さんは10%台ですが、さらなる治療法の開発により今後、個別化医療・臓器横断的治療はますます進んでいくものと予想されます。

まだ少ないがんゲノム医療連携病院の一つとして、引き続きがん診療の進歩に取り組んで参りたいと思います。

コメディカル紹介



栄養管理課 係長  
おおやま あいこ  
**大山 愛子**

栄養管理課は栄養管理課長（事務職）1名、管理栄養士7名、事務員1名で構成され、給食管理業務、栄養管理業務、栄養指導を担い、診療部門の一つとして患者さんを栄養面からサポートしています。

給食管理業務は一部を業務委託しており、委託会社職員34名と共に安心安全な食事・ミルクを提供しています。給食は年末年始を除く毎日、朝・夕1日2回の選択食を実施し、季節ごとに旬の食材や行事食を取り入れ、食事を楽しんでもいただけるように工夫しています。

当院は地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア病棟を有し、がんの患者さんとご家族の様々なニーズを和らげるケアを積極的・集中的に行い、穏やかで有意義な日々を過ごしていただくための環境を整えています。



緩和ケア病棟の食事

## 栄養管理課

ます。最期まで、がん患者さんが自分らしく、できるだけ快適に過ごせるように、管理栄養士も病室を毎日訪問し、医師・看護師と連携しながら食事内容を個人に合わせて細かく調整しています。

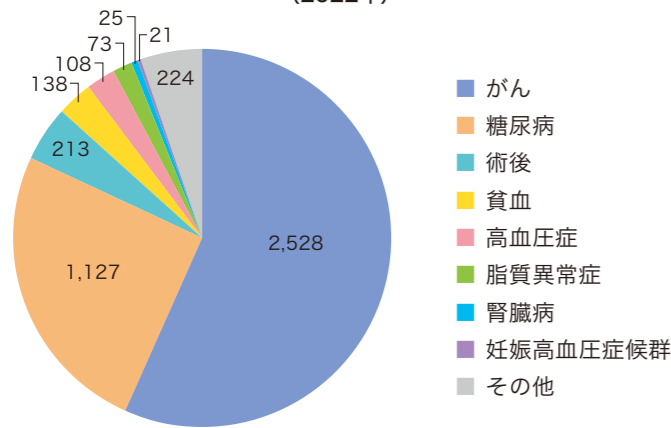
栄養管理業務は、入院時の栄養管理計画書作成と入院・外来の患者

さんへの栄養指導を中心に行っています。管理栄養士は糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、肥満症生活習慣改善指導士の資格を有し、生活習慣病、がん、低栄養、摂食嚥下困難、術前・術後の栄養指導では、

科学的根拠に基づいた情報の伝達と治療意欲の向上を目指しています。また、チーム医療（NST、認知症ケア、緩和ケア、褥瘡）にも積極的に参加し、多職種と連携して患者支援を行っています。

今後も、より一層研鑽を積み、患者さんに貢献してまいります。

栄養指導件数 (2022年)





公益財団法人健和会

## 大手町リハビリテーション病院



### 診療科目

内科、リハビリテーション科、皮膚科、放射線科、脳神経外科、整形外科

### 診療時間

※外来診療は完全予約制です。

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~11:30	●	●	●	●	●	●	—
14:00~16:00	—	●	●	—	—	—	—

北九州市小倉北区大手町14番18号 TEL.093-592-1166



院長 米田 浩 先生

### 当院について

当院は西鉄バス「大手町」停留所から徒歩1分、自家用車の場合は駐車場もあります。回復期リハビリテーション病棟110床、医療療養病床165床、障害者病床55床の計330床を有し、病棟では内科、外科、整形外科、脳神経外科など様々な専門性を持った医師と、看護師、リハビリテーション技師、介護福祉士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士などがチームで診療にあたります。摂食嚥下障害認定看護師による食事のサポート、がんのリハビリ、医療用ロボット単関節HALを用いた運動療法も実施しております。

### 地域の方へ、患者さんへメッセージ

入院中に緊急の検査・治療が必要な場合は、健和会大手町病院などの急性期病院と連携をとっております。医療・介護・生活期の一体的なサービス体制を提供する地域密着型のリハビリテーション病院として機能していくことを使命と考えております。

経済的に不安のある方にも、適切な治療を受けていただくために、社会福祉法第二条第三項にもとづいて、無料または低額で診療等を行う無料低額診療事業を行っており、室料差額(差額ベッド料)は一切いただきません。

## おく胃腸内科クリニック

北九州市小倉南区湯川1-4-6  
TEL.093-931-6611

### 診療科目

一般内科・胃腸科

### 診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:00	●	●	●	●	●	●	—
14:30~17:00	●	●	●	●	●	—	—

※火曜日は午前9:00~12:30まで/午後14:00~17:00まで  
木・土曜日は午前8:30~12:30まで

### 当院について

当院は、漢方医の初代院長 奥三猿が百余年前に開院し、現在にいたります。時代や世代が移り変わっても、「ひと」を診る姿勢は変わりなく、この言葉は初代から引き継がれてきた当院の大切な教えです。

これからも、この先も、「からだ」と「こころ」と「地域」を見つめ、皆さまのお役に立つクリニックとして、努めてまいります。



副院長 奥 雄一郎 先生



### 地域の方へ、患者さんへのメッセージ

おく胃腸内科クリニックでは、「カラダのオクに寄り添います」をモットーに、地域に根付いた総合診療を行っています。定期的な慢性疾患の診療に加えて、診療所に来院できない患者様に関しましては訪問診療を行っております。副院長は消化器内視鏡の専門医で肝臓専門医でもあります。内科・胃腸科の全ての病気や異常に対し、幅広く診療させていただきますのでよろしくお願いたします。

# 登録医のご紹介

### 医療法人

## ありどめ内科クリニック

北九州市小倉北区井堀3丁目1-13  
TEL.093-583-0577

### 診療科目

一般内科

### 診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	●	●	●	●	●	●	—
14:00~18:00	●	●	—	●	●	—	—

※水・土曜日は午前9:00~13:00まで



### 当院について

小倉北区井堀に内科を開院して20年が過ぎました。コロナ禍では発熱外来やワクチン外来も行い、来院される方々にも多大なご協力を頂き、何とかの乗り越えることができました。今後も、かかりつけ医として診療に努めたいと思っております。よろしくお願いたします。

### 地域の方へ、患者さんへのメッセージ

かかりつけ医の役割は皆さんの日頃の健康状態を詳しく知り、病気の予防や早期発見と早期治療に繋げることです。どの方も、一生のうちいろんな病気をすることと思います。専門の病院との連携を取るためにも、身近にかかりつけ医を持つことを勧めます。



院長 有留 秀泰 先生

## 令和5年度市民公開講座のご案内

今年度より対面にて市民公開講座を開催いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止により中止しておりましたが、令和4年度よりYoutube公開開始、令和5年度から従来の「顔が見える」対面で復活いたします。

今年度の市民公開講座は150周年の記念事業として、「あなたの知らない市立医療センター」をテーマに講演を予定しております。当院の最新医療技術や日常では目にすることの無い「医療のうらがわ」をお届けいたします。

詳細は随時ホームページやSNSでアップする予定です。

これからも地域の皆さまからご信頼いただける、安全で質の高い医療を提供できるよう目指してまいります。

